

うきくしれやうれでね正理くばい免
角もはあ人のまゐんこまうせゆとん城の
女重神のていへに見て一様とせんとあそ
ば右馬殿が妻子やうかきうつゝいばい
後拾得る人金人けふいかにあじ
殿の正先達をらん城とやうな年々の
中へ新入自害のうば人へにまんを
さるを服連んとこのうに自家をせん

ねいぬと種く創く列とのこあ
きいーとらぬこそちうられ押
有るまゐるちうねでなぬの枝り
城中をむくか中へまき物いひは
中へ今へち統統なる持統城の中
とらふ又立ゆやうかきうまうとく
城と持統は海合な事を願ふゆは
恙なく出給へるなり所義光なる